

札幌市文化芸術創造活動支援事業について

1 経緯

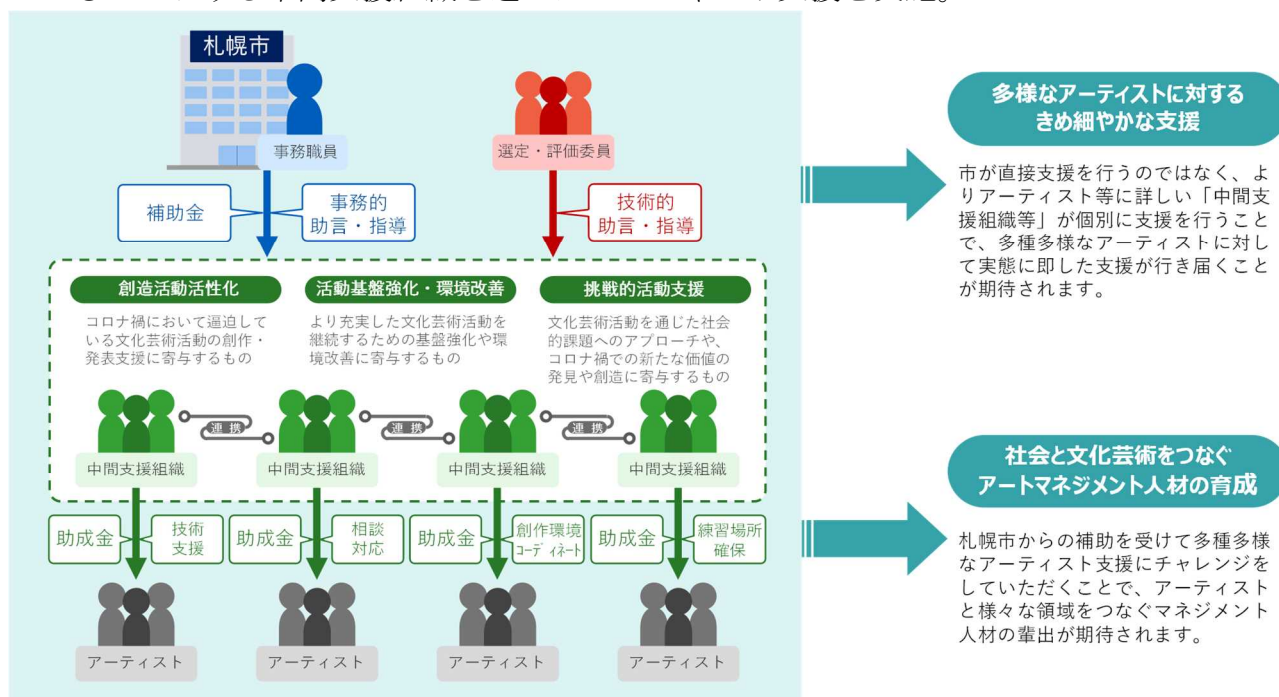
(1) コロナ禍における「札幌市文化芸術未来会議」の開催

- 令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が文化芸術の領域にも多大な影響を与えていることを踏まえ、文化芸術関係者等による「札幌文化芸術未来会議」を令和2～3年にかけて計10回実施。
- 会議ではコロナ禍におけるアーティストの緊急支援と中長期的な支援の両方の観点から議論が行われ、最終的に以下の方向性が結論付けられ、中間支援組織を活用した「札幌市文化芸術創造活動支援事業」が生まれた。

◆ きめ細かなアーティスト支援（伴走型支援）が必要。加えて、社会＝異分野と文化芸術をつなぐアートマネージャーの育成が札幌市の文化芸術の振興にとって極めて重要

(2) 令和4年度札幌市文化芸術創造活動支援事業

- いわゆる中間支援組織を通じたアーティスト支援を実施。



- 支援を受けたアーティストの評価において、金銭的支援よりも相談対応や助言といった金銭以外の支援（伴走型支援）の方が評価が高かった

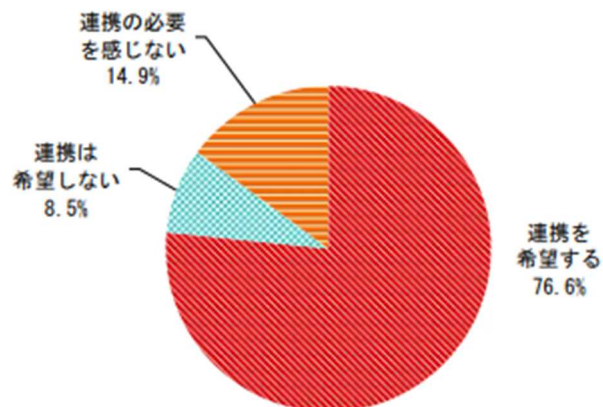
支援内容全体の評価	金銭的支援（助成金等）への評価	金銭以外（相談・助言等）への評価
平均 4.77	平均 4.46	平均 4.69

- 一方で公平性や透明性の確保についての課題も挙げられたところ。
- また、令和4年度の評価委員会では、『コロナ支援的な観点から今後の継続的な支援への視点を移し、本制度を行うことでアーティストだけでなく、地域全体にどのようなメリットがあるのかをより明確にしていける必要がある。』との結論に至っている。

2 地域還元の可能性【アーティストの他分野との連携の意識（令和4年度札幌市調査）】

(1) 他の文化芸術分野や社会分野と連携をしていきたいアーティストの割合

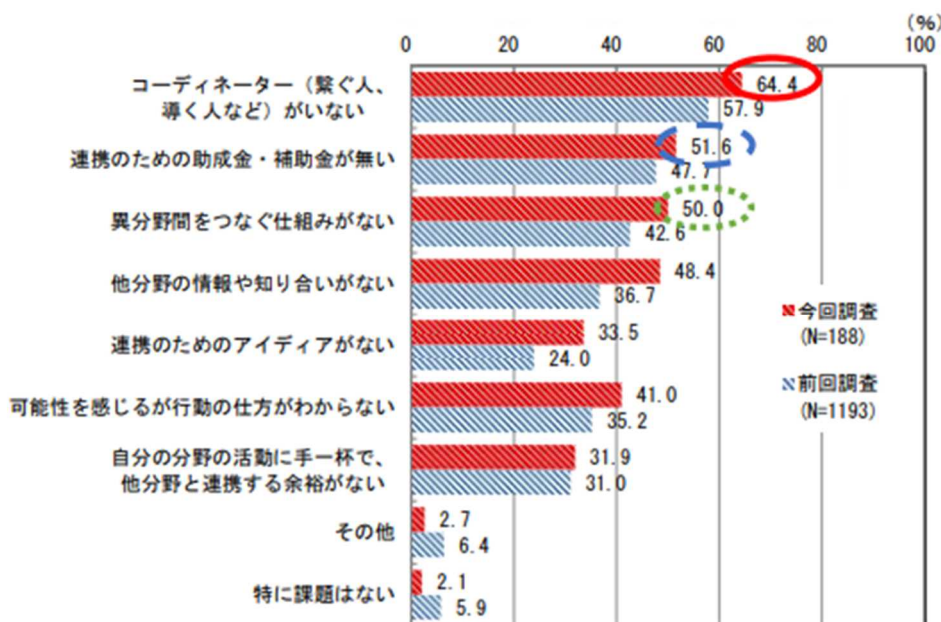
- 連携を希望するアーティストが 76.6%



(N=188)

(2) 異なる文化芸術分野間の連携や文化芸術と社会分野の連携を進めるためにどのような課題があると思うか

- 「コーディネーターがいない (64.4%)」の回答率が最も高く、次いで「連携のための助成金・補助金が無い (51.6%)」、「異分野をつなぐ仕組みがない (50.0%)」の順となっている。



⇒ アーティストサイドでは、異分野連携に対する一定のニーズがあるものと思われるが、つなぎ手や資金の問題で実現できていない可能性が高いものと思われる。

3 令和6年度札幌市文化芸術創造活動支援事業

以上を踏まえて、中間支援組織の活用も視野に入れた異分野連携の事業として構築。

応募区分	新たな創造活動へのチャレンジに対する支援	文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携	
		公募型	事業型
対象事業	アーティストのステップアップ等の支援	アーティストの活動を異なる分野とつなぎ地域社会にも新しい価値等をもたらす取組	
補助限度額	300万円	200万円	100万円
補助率	10/10		
応募要件①	応募者が札幌市内に拠点等を有するなど	行われる活動が札幌市内で行われること (応募者の拠点が市内にある必要はない)	
応募要件②	支援対象の市内で活動するアーティストを広く公募すること	少なくともアーティストを1名公募すること	特に公募を要件としない
採択見込み件数	1件程度	1～3件程度	1～5件程度

